

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成26年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaisokensaku_ip/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivovnoCd=4472300575-00&PrefCd=44&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府吉番館1F		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の田畑に囲まれた静かな環境で、四季の移り変わりを感じ、のんびりと過ごしていただける。心も身体も健康に過ごすには「食」が大切という考えから、施設内の畑で無農薬の野菜を作り、米も施設長所有の田んぼで作った物を提供している。また、施設周辺で採れた山菜を使い季節感のある食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々に囲まれ豊かな自然環境の中に立地し、古民家改造型の良さを残し、人の温かさを感じる1ユニットのホームです。女性職員は全員が白い着姿で対応し、その空間だけが昔に戻ったように感じ、利用者の安らぎに繋げており、特徴的です。利用者は加齢に伴う日常生活動作の低下や病気の進行等も見られ、地域の中に出かけることが難しいという現状を、打開するために、少しでも外に出たいという意欲が出るよう声掛けを工夫したり、外出した時の利用者の一瞬の笑顔を励みに職員は支援に努めています。管理者、職員は身体拘束、虐待防止に力を注ぎ、勉強会を行い「禁句と言われる言葉」の資料を基に、言葉掛け、笑顔での対応を行い、意思表示の少ない利用者には、スキンシップを大切に優しい対応で、安心して暮らして行けるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や居間に理念を掲示している。 また、毎朝申し送りの後に全員で理念を唱えて共有し、実践につなげている。	理念は管理者、職員で検討し作成されており、「笑顔、感謝、気配り、地域活動」等を掲げています。職員は理念を共有し実践する中で、利用者の立場にたった、温かみのある介護を提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員のほとんどが地域の住民であるため日常的に交流している。また、地域のボランティアにも来ていただき交流している。	地域の祭りの炊き出し、清掃活動等行事に参加しています。ボランティアとの交流(歌や踊り)では利用者も一緒に楽しんでいます。又、管理者は地域住民の介護等に関する相談には、誠意をもって支援を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を行い、行政、包括センター、地域の方々に状況等報告して、質問 や意見をいただきサービス向上に活かしている。	運営推進会議は各分野からの委員で構成され、定期的に開催されています。事業所及び利用者の近況報告を行う中で、委員からの的確な意見をサービスの向上に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議に来ていただいた時に、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、相談して、アドバイスをいただいている。その外に困ったことがあれば電話で相談している。	運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状を理解してもらい、情報提供やアドバイスをもらっています。又、管理者は問題、課題等、行政担当窓口に出かけ、情報や相談しており、積極的に協力関係を築くようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の勉強会を一年に一回行っているし、やむを得ず身体拘束を行っている方には、毎月身体拘束検討委員会を開き、検討している。	全職員は身体拘束及び虐待による弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。マニュアル(禁句といわれる言葉集)をもとに勉強会を行い、言葉掛けが不適切にならないように、意識付けに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一年に一回勉強会で虐待防止について学び防止に努めている。また、施設内での虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族に任せて支援していない。 今まで学ぶことが無かったので三月に勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する説明は十分に行い、理解・納得されて署名・捺印をして戴いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回入居者の家族にアンケート調査を行い意見・要望をいただいて運営に反映させている。また、玄関にご意見受け取り箱を設置している。	年1回独自で家族アンケートを行い、その結果を集計し、管理者、職員で検討を行う中で、部屋替え等の要望も前向きに対応しています。面会に来れない家族にも、アンケートを通し、要望や意見を伺っており、本音を出しやすい環境作りに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、申し送り時や、勉強会等で話し合い、業務改善や、サービスの向上に努めている。	職員の意見については、アンケート調査や、毎月の会議の機会を使って聴き取りながら運営に活かしています。職員の要望でトイレの改修を行う予定です。又、管理者は日頃からコミュニケーションの機会を持ち(夜勤時にゆっくり話す)良好な関係作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の援助や資格取得時の給料アップ等、各自が向上心を持って働けるように努めている。また、個々の状況にあわせた労働時間の調整、シフトの作成等環境・条件整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は二ヶ月に一回行い、法人外の研修は個々のレベルに応じて受けるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加する事で同業者と交流しているが、相互訪問等以前は行っていたが現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に本人、家族等に面会し、コミュニケーションを取って本人の状態の把握や良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族等と連絡を取ったり、面会して話し合う事で良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等、関係機関と話し合い、当施設が本人にとって適切な施設なのか等を含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、得意な事を把握し、出来る方々には協力をして戴いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に状況に応じて、食事介助をお願いしたり、自室で一緒にゆっくりと過ごしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会は快く受け入れている。馴染みの場所を訪問することはしていない。	重度化による体力低下により、馴染みの場所等に出向くことが困難になりつつあります。家族や親類の訪問や馴染みの職員との会話が楽しみになっています。	今迄の介護記録や生活歴を勘案し、レクリエーションに活かす等、馴染みの関係継続の支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性等を考慮して居間の席を決めたり、誘導している。また、日中はできるだけ自室にこもらず居間で過ごして頂く様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居される方がおられないので相談や支援はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望等を伝えられない方がほとんどなので家族からの情報や希望を把握し、また、日々の様子、性格等を考慮し、本人本位に検討している。	一人ひとりの状態に応じて思いや意向、変化を把握し、本人が望まれる生活や状態に合わせた支援を行うように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時に情報収集しているが、分からない事が出てくれば家族等に聴き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や気付いた事はケース記録に記入し申し送りの時にも現状の把握が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の意向を聴き、職員とは担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングも介護職員と行っている。	利用者、家族の意向のもと、更新に合わせ目標を設定し、半年毎に見直しを行っています。担当職員の意見、観察の結果を持ち寄り介護計画を作成しており、体調の変化があれば、その都度見直しを行っています。	個別の記録をケアの実践に活かすためにも、介護記録は、身体状況や日々の暮らしの様子、本人の言葉やエピソード等も細かく書くことで介護計画の見直しにも活かされます。記録方法の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫はケース記録に記入し申し送りの時にも現状の把握が出来る様に努めている。また、白板にも書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りをしない方針であったが家族の強い要望もあり、かかりつけ医と十分話し合って看取りをする予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	五月の祭りは神輿に来ていただいている。また、地域のボランティアグループにも来ていただいて皆で歌ったり、体操をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談をしてかかりつけ医を決めている。また、状態に応じてかかりつけ医以外の専門医を受診している。	家族から、かかりつけ医や受診については任せられており、随時対応しています。受診は職員が同行し結果を家族に報告しています。3ヶ月に1回の血液検査、年1回のレントゲン検査が定期的に行われており利用者の健康管理が十分なされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づきがあればかかりつけ医に連絡して、適切な指示をいただき対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、面会に行ったり、安心して治療できるように、又は、出来るだけ早期に退院できるように病院関係者と情報交換や相談をしてなんでも相談できる良い関係にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしない方針であったが家族の強い要望もあり、かかりつけ医と十分話し合って看取りをする予定。看取り指針も作成中。	昨年看取りをしました。その経験を活かし、対応マニュアルや家族との確認・同意書などを作成中です。これからも看取りについて研修を積み重ね、拒否することなく家族と話し合いながら職員全員で取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年何度も救急搬送された方がおられ皆が救急に対応できるように訓練し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に二回避難訓練を行っている。また、災害時には地域の方々に協力していただける体制を築いている。	年2回消防署と一緒に避難訓練や消火訓練を実施しています。夜間を想定して職員一人でする訓練も行いました。地域の方々にも万が一の時は来て頂ける体制になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針の「利用者様は私達の家族」という精神の下に一人ひとりを尊重し、プライバシー確保に努めている。	利用者の、人としての尊厳を守りプライバシーを確保することに努めています。人権やプライバシーの保護について研修が行われそれを実践しています。「使ってはいけない禁句」の一覧表を常に頭の中に入れて利用者を傷つけないような言葉使いに心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いの表出や自己決定のできる方には本人の意思を尊重した支援を心掛けている。できない方はその時々の様子や体調、性格等を考慮したうえで支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の食事、毎月の定期受診等は決められているが、基本的には一人ひとりのペースや希望、体調に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を購入したり、着替えの準備をする場合は、季節に合ったその人に似合う物を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が重度化し食事の準備や片付け等ができないが、季節の野菜を使用し季節を感じることが出来る食事を提供し、楽しんでいただけるように努めている。	マンツーマンによる食事介助により会話をしながらゆっくり食事を楽しんで頂いています。季節ごとの色々な食材を使って四季を感じてもらえるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定、血液検査で栄養状態等をチェックしている。また、一人ひとりの嚥下状態に応じて、ミキサー食、トロミ食等にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ではできない方は職員が口腔ケアをし、出来るが十分でない方は仕上げ磨きをする等本人の状態に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけやトイレ誘導をして、トイレで排泄が出来る様に支援している。また、一人で排泄できる方は排泄チェックを行い一人ひとりに合った支援をしている。	日中は、できるだけトイレで排泄出来るよう介助しています。時間を見てさりげなく声掛けしトイレへ誘導されています。利用者それぞれの状態に応じた対応が伺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使用した食事を提供し、毎日牛乳を飲んでいただいている。便意の無い方にも毎日トイレに座っていただき自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を言われる方がいないので、木曜日以外の午後、本人の体調を考慮して職員が決めて支援している。	冬場のヒートショックが起こらないよう、浴室・脱衣場の温度管理がしっかりなされています。利用者一人ずつの入浴で、ゆっくりした時間が持たれ、職員とのふれあいも十分あります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や気分に応じて散歩に出たり、自室で休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の効能・効果を綴りいつでも確認できるようにしている。また、症状の変化があればかかりつけ医に報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事、好みを把握し、役割を持って頂いたり、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方はいないが気候の良い時は庭でお茶を飲んだり、歌を歌ったり、散歩に出かけたりしている。季節毎にお花見にも出かけている。	自然に囲まれているので、四季折々の草花を眺めてのんびりとした時間が提供されています。庭にパラソルを広げ、景色を眺めたりお茶を飲んだり談笑しています。気分転換にドライブに出かけたりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方は一人いるが最近を使う事をしなくなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化し手紙のやり取りや電話をかける方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿温計を設置し、温度、湿度を管理し、換気にも注意し、快適に過ごせるように配慮している。また、季節の花を玄関、居間、居室等に活けて季節感を感じられるように工夫している。	玄関や居間などに、季節の花々を飾り四季を感じられるよう努めています。利用者の心身の状態が変わっていく中で、トイレや居室・居間等で利用者や職員が動きやすいよう改装しています。古物を置いたり元の家の部分を残して懐かしい雰囲気づくりに努めています。	古民家を改装した施設なので、改築が何度となく行われています。そのため段差が発生しています。利用者の心身の状態を把握しながら、バリアフリーに向けたより一層の取り組みが期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の席は利用者の相性、性格を考慮して決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時に使い慣れた物を持ち込む方はあまりいない。しかし、写真を貼ったり、季節の花を活けたりして、居心地良く過ごせるように工夫している。	これまで使い慣れた家具などを置いて、安心して暮らせるよう落ち着いた部屋づくりが伺えます。居室には大きな時計が掛けられており、時間の感覚が保たれるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をしたり、手すりを設置したり、居間のテーブルの高さに椅子や車椅子の高さを合わせたりして安全に生活が出来る様に工夫している。		